

「突き抜ける青空の下で」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ before

窓の向こうから声が聴こえるたびに外を見下ろした秋です。1、2年生による集団演技『神高のあゆみ』の練習をする人がいます。騎馬戦の練習をする人がいます。マーチングの練習をする吹奏楽部がいます。

第78回体育大会に向けて、ムードは高まる一方でした。



○ 迎えた当日



朝、私たちを出迎えてくれたのは「体育大会」の看板です。国語の細野先生が筆で書いてくださいました。文化祭や卒業式をはじめ、本校の大切な行事の度に書いてくださっています。いつもながら伸びやかで品格ある文字です。この日も重厚感のある校舎とどこまでも突き抜ける青空を背景に、看板はよく映えていました。



さて、私にはこの日、使命がありました。24号で書いた引き継ぎの際の西田校長先生からの厳命。そのひとつに「体育大会の日、校長は紺ブレザーに白い体育ズボンを着ること」があったのです。「それが神戸高校の伝統」とも言われました。しかし、私の筆筒に白い体操ズボンはありません。世間的にもあまり見ないですね。だから必死に探し回りました。当日、同窓会の太田様に「やはり白ズボンですね」と言っていたら、胸を撫でおろした私です。

開会挨拶はシンプルなものにしました。『自治会が決めてくれた今大会のスローガンは、「勝破笑美戦 かっぱえびせん」～やめられない・とまらない熱い戦い～です。戦いですから、全力を尽くして勝ちに行くのは当然のことです。その時に忘れないでほしいのは「かっぱえびせん」の「え」と「び」に充てられた漢字。どうか笑顔は忘れず、しかも美しく勝ちにしてくれたら嬉しいですね。皆さんのそういう姿を期待します』。

果たして願いどおりの1日になりました。どの競技も一瞬たりとも目を離せない、熱い戦いが繰り広げられました。そんな中、特に目を引いたのはやはり『神高のあゆみ』でしたでしょうか。時代に応じて少しずつ変化をしながらも、伝統的に続く集団演技は早い時間から多く集まってくださった保護者の方々と3学年がスタンドから見守る中、最高のパフォーマンスを見せてくれました。練習の成果、出し切りましたね。



また、私個人としてもPTAの方と綱引きに参加させていただいたり、台風の日では吉岡教頭先生、澤田先生とともにヘルメットスタイルでタイヤの上に座り、生徒の皆さんに引っ張ってもらったり、20名で編成した教職員チームでFSTリレーを走ったりと、見るだけでなく身体で体育大会を満喫させていただきました。



予行のときに教頭先生にお願いされた「本気の体育大会」を実現しましたね。雨を心配することもなく、大きなけが人も出ることなく無事に終えることができた体育大会。

しっかりと準備をしてくれた自治会メンバー、「神高のあゆみ」の幹部、暑さに負けず、学ランを着込んで士気を高めてくれた応援団、この日も大活躍だった吹奏楽部員をはじめとするすべての神高生と最初から最後まで大声援と拍手をもって見守ってくださった保護者の方々に感謝感謝です。

O a f t e r

しかし、ドラマはここで終わりませんでした。接戦の末に、優勝を飾ったのは5組。それでも体育大会が終わったあとの記念写真を撮るまでには、けっこう時間がかかりました。

実は撮ろうとする度に、声が上がったのです。「…さんがいない」「…さんがいない」と。閉会式も演奏をしてくれた吹奏楽部の生徒のことを気かけ、楽器をおいて全員が合流するまで待っていたのです。成し遂げた笑顔も素敵でしたが、1人ひとりを待っているときの姿もなかなか素敵でした。

また、最後の片付けでは自治会メンバーや運動部の生徒が大活躍。あまりにいい表情で取り組んでくれているので、シャッターを押しまくってしまいました。青空のもと、いい体育大会になりましたね。



そうそう、大学生になったら「本気の体育大会」なんて恐らくないからね。保育園や幼稚園から、小学校、中学校、高校と本気の運動会・体育大会をさんざん経験してきた78回生の皆さん。忘れられない締め括りになりましたか。